



2025年3月期 第2四半期 (中間期) 決算短信〔日本基準〕 (連結)

2024年11月11日

上場会社名 愛眼株式会社 上場取引所 東
コード番号 9854 URL <https://www.aigan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々 昌俊
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 雅彦 TEL 06-6772-3383
半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無: 無
決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期 (中間期) の連結業績 (2024年4月1日~2024年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 中間純利益 | |
|-------------|-------|------|------|---|------|---|---------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2025年3月期中間期 | 7,643 | △0.3 | △46 | - | △19 | - | △61 | - |
| 2024年3月期中間期 | 7,664 | 6.8 | 16 | - | 49 | - | △15 | - |

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △89百万円 (-%) 2024年3月期中間期 58百万円 (-%)

| | 1株当たり 中間純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益 |
|-------------|----------------|---------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2025年3月期中間期 | △3.15 | - |
| 2024年3月期中間期 | △0.80 | - |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2025年3月期中間期 | 13,998 | 12,014 | 85.8 |
| 2024年3月期 | 14,079 | 12,103 | 86.0 |

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 12,014百万円 2024年3月期 12,103百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年3月期 | - | 0.00 | - | 0.00 | 0.00 |
| 2025年3月期 | - | 0.00 | - | - | - |
| 2025年3月期 (予想) | - | - | - | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2025年3月期の連結業績予想 (2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|------|---|------|---|---------------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 15,373 | 4.9 | 78 | - | 126 | - | 41 | - | 2.13 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社（社名）－、除外 1社（社名）北京愛眼鏡有限公司

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

| | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2025年3月期中間期 | 21,076,154株 | 2024年3月期 | 21,076,154株 |
| 2025年3月期中間期 | 1,669,099株 | 2024年3月期 | 1,668,869株 |
| 2025年3月期中間期 | 19,407,186株 | 2024年3月期中間期 | 19,407,536株 |

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 当中間決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 中間連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 中間連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 | 6 |
| 中間連結損益計算書 | 6 |
| 中間連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (中間連結貸借対照表に関する注記) | 9 |
| (中間連結損益計算書に関する注記) | 9 |
| (中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) | 10 |
| (セグメント情報等の注記) | 11 |

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻の長期化やイスラエル・パレスチナ地域をめぐる中東情勢の緊迫化などの不安定な国際情勢に加えて、国内においては、賃金と物価の好循環による雇用・所得環境の改善や株高による資産効果が期待される一方で、エネルギー・原材料価格の高騰や円安の影響に加え、人件費や物流コストの増加などを背景とする物価上昇圧力の強い状態が長引くことによって、消費者マインドが停滞し、個人消費にネガティブな影響を与える懸念が生じるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「お客様の暮らしを、より快適に、より豊かにする企業となることを目指し、安心の技術、納得の商品、気持ちに寄り添うサービスを提供します。」を経営方針として掲げ、「目と耳の健康を守る」ことを社会的な使命と責任と捉え、顧客体験価値の最大化を追求するとともに、アフターコロナにおける事業展開を見据えた取り組みを推し進めております。また、組織及び人材面では、業務の効率化並びに働き方改革や女性活躍推進などに取り組み、プロアクティブな組織づくりを進めております。

当中間連結会計期間の経営成績は、新型コロナウイルス感染症対策の行動制限の撤廃により、これまでコロナ禍で影響を受けてきた店舗での対面型販売はほぼ平時の状態に戻ったものの、売上高は7,643百万円(前年同期比0.3%減)となり、コロナ禍以前の売上水準には未だ戻っておりません。売上総利益率は、商品仕入コストの上昇に伴い一部商品について販売価格の値上げを行ったことや、セール等の販売戦略上の影響及び品目別売上構成比の変化などにより若干上昇しました。経費面では、店舗照明のLED化による節電や改装費用の圧縮など経費コントロールの徹底に努めましたが、主に人件費や広告宣伝費など運営コストの上昇があったため、販売費及び一般管理費は5,241百万円(前年同期比1.0%増)となり、売上高に対する販管費の割合は上昇しました。

この結果、営業損失は46百万円(前年同期は営業利益16百万円)、経常損失は19百万円(前年同期は経常利益49百万円)、また、特別利益として、在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益36百万円、特別損失として、減損損失33百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する中間純損失は61百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失15百万円)となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりであります。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として長年培ってきた安心で快適な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の信頼性と独自性の向上並びに認知度の拡大に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応し、お客様視点を第一とする商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図ってまいりました。同時に、価値の高い顧客体験を通じて顧客満足度を高め、顧客ロイヤルティを向上させるように、TVCMやラジオCM、新聞折り込みチラシやDM、雑誌や動画、WEB広告やSNSなど幅広いメディアを活用した複合的で最適な情報発信の強化や店舗特性に合わせたマーチャンダイジングの構築を通じて、「愛眼ブランド」の認知度向上に努めております。店舗におきましては、タブレット端末の活用や接客サポートシステムなどDX推進により店舗オペレーションの効率性を高め、お客様との接点を増やすことで、お客様に対する接客・サービスをさらに充実させております。また、アフターコロナへの対応として、通販事業を見直し、お客様の利便性や新しい生活様式に合致した形態によって実店舗との連携を深めたネット通販事業の強化に取り組んでおります。

人材教育面につきましては、視力・聴力補正技術、商品提案、接客・サービスに関する従来からの従業員向け教育指導に加えて、2022年に新設された国家検定資格の「眼鏡作製技能士」の取得を順次進めております。

売上高につきましては、社会経済活動の正常化に伴い人流が戻り、アフターコロナ期への移行が進みましたが、全体では前年同期比で減収となりました。主力品目のメガネと準主力品目の補聴器は前年同期比で減収となり、メガネにおいてはコロナ禍以前の売上水準には未だ戻っておりませんが、補聴器はコロナ禍以前の売上水準に回復しております。準主力品目のサングラスは、行動制限が撤廃されたことにより客足の回復が進み、また、今年は異常な猛暑の中で紫外線対策に対する関心が増えたこともあり前年同期比で増収となり、順調な回復基調にあります。

店舗につきましては、東京都の町田市に1店舗を新規出店し、3店舗を閉店しました。また、既存店の活性化を目的とした改装を4店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は7,438百万円(前年同期比0.2%減)、セグメント損失は27百万円(前年同期はセグメント利益55百万円)となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新商品の投入や販売支援を通じて得意先との取引深耕を図るとともに、新規取引先の開拓に努めております。

この結果、売上高は204百万円(前年同期比0.1%減)となり、セグメント損失は7百万円(前年同期はセグメント損失8百万円)となりました。

[海外眼鏡販売事業]

当社連結子会社である北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の取締役会の決議に基づき、現地の法令等に従い、解散及び清算へ向けた諸手続きを進めておりましたが、2024年8月20日をもって清算が終了いたしました。

この結果、売上高は0百万円(前年同期比87.1%減)、セグメント損失は8百万円(前年同期はセグメント損失20百万円)となりました。

なお、売上高0百万円は、2023年12月末の最終注文分を2024年1月に出荷したことによるものであり、中間連結会計期間以降に売上高が追加で発生することはありません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の資産合計は13,998百万円(前連結会計年度末比0.6%減)となりました。流動資産は、商品及び製品の増加、現金及び預金の減少、売掛金の減少等により7,367百万円(前連結会計年度末比0.3%減)となり、固定資産は、敷金及び保証金の減少等により6,630百万円(前連結会計年度末比0.9%減)となりました。また、負債合計は、支払手形及び買掛金の増加、賞与引当金の増加、未払法人税等の減少、流動負債その他に含まれる預り金の減少等により1,983百万円(前連結会計年度末比0.4%増)となり、純資産合計は12,014百万円(前連結会計年度末比0.7%減)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は前連結会計年度末に比べ163百万円減少し、1,691百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは△104百万円(前年同期は12百万円)となりました。

この現況に至った主な要因は、減価償却費79百万円、減損損失33百万円、賞与引当金の増加額76百万円、売上債権の減少額103百万円、在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益△36百万円、棚卸資産の増加額△232百万円、法人税等の支払額△90百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは△59百万円(前年同期は△53百万円)となりました。

この現況に至った主な要因は、有形固定資産の取得による支出△93百万円、敷金及び保証金の回収による収入57百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△0百万円(前年同期は△0百万円)となりました。

この現況に至った主な要因は、自己株式の取得による支出△0百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月10日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては2024年11月5日に公表いたしました「特別利益及び特別損失の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2024年3月31日) | 当中間連結会計期間 (2024年9月30日) |
|--------------|-------------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,360 | 4,197 |
| 受取手形 | ※ 8 | 7 |
| 売掛金 | 820 | 717 |
| 商品及び製品 | 1,929 | 2,155 |
| 原材料及び貯蔵品 | 22 | 30 |
| その他 | 250 | 261 |
| 貸倒引当金 | △1 | △1 |
| 流動資産合計 | 7,390 | 7,367 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 (純額) | 1,044 | 1,027 |
| 土地 | 1,799 | 1,799 |
| その他 (純額) | 173 | 191 |
| 有形固定資産合計 | 3,017 | 3,018 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 18 | 15 |
| その他 | 0 | 2 |
| 無形固定資産合計 | 18 | 18 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 714 | 729 |
| 敷金及び保証金 | 2,623 | 2,553 |
| その他 | 315 | 311 |
| 投資その他の資産合計 | 3,653 | 3,593 |
| 固定資産合計 | 6,689 | 6,630 |
| 資産合計 | 14,079 | 13,998 |

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (2024年3月31日) | 当中間連結会計期間 (2024年9月30日) |
|---------------|-------------------------|---------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | ※ 406 | 437 |
| 未払法人税等 | 157 | 109 |
| 契約負債 | 283 | 300 |
| 賞与引当金 | 54 | 130 |
| その他 | 566 | 491 |
| 流動負債合計 | 1,468 | 1,470 |
| 固定負債 | | |
| 繰延税金負債 | 107 | 111 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 6 | 6 |
| 資産除去債務 | 313 | 313 |
| リース債務 | 4 | 5 |
| その他 | 76 | 76 |
| 固定負債合計 | 508 | 513 |
| 負債合計 | 1,976 | 1,983 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,478 | 5,478 |
| 資本剰余金 | 6,962 | 6,962 |
| 利益剰余金 | 2,891 | 2,830 |
| 自己株式 | △1,051 | △1,051 |
| 株主資本合計 | 14,280 | 14,219 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 258 | 266 |
| 土地再評価差額金 | △2,471 | △2,471 |
| 為替換算調整勘定 | 35 | — |
| その他の包括利益累計額合計 | △2,176 | △2,204 |
| 純資産合計 | 12,103 | 12,014 |
| 負債純資産合計 | 14,079 | 13,998 |

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|-----------------------------|--|--|
| 売上高 | 7,664 | 7,643 |
| 売上原価 | 2,458 | 2,448 |
| 売上総利益 | 5,206 | 5,195 |
| 販売費及び一般管理費 | ※1 5,190 | ※1 5,241 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 16 | △46 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 1 |
| 受取配当金 | 6 | 7 |
| 保険配当金 | 11 | 9 |
| 受取家賃 | 23 | 19 |
| その他 | 11 | 9 |
| 営業外収益合計 | 53 | 46 |
| 営業外費用 | | |
| 固定資産除却損 | 2 | 3 |
| 賃貸費用 | 13 | 11 |
| その他 | 3 | 3 |
| 営業外費用合計 | 19 | 19 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 49 | △19 |
| 特別利益 | | |
| 在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益 | — | 36 |
| 特別利益合計 | — | 36 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | ※2 11 | ※2 33 |
| 特別損失合計 | 11 | 33 |
| 税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△) | 38 | △16 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 55 | 44 |
| 法人税等調整額 | △2 | 0 |
| 法人税等合計 | 53 | 45 |
| 中間純損失(△) | △15 | △61 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | — | — |
| 親会社株主に帰属する中間純損失(△) | △15 | △61 |

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|----------------|--|--|
| 中間純損失 (△) | △15 | △61 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 70 | 7 |
| 為替換算調整勘定 | 3 | △35 |
| その他の包括利益合計 | 73 | △28 |
| 中間包括利益 | 58 | △89 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 58 | △89 |
| 非支配株主に係る中間包括利益 | — | — |

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|-----------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△) | 38 | △16 |
| 減価償却費 | 92 | 79 |
| 減損損失 | 11 | 33 |
| 在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損益(△は益) | — | △36 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 130 | 76 |
| 固定資産売却損益(△は益) | △0 | — |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △39 | 103 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | △245 | △232 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 113 | 30 |
| その他 | △5 | △61 |
| 小計 | 94 | △23 |
| 利息及び配当金の受取額 | 7 | 7 |
| 法人税等の支払額 | △91 | △90 |
| 法人税等の還付額 | 1 | 2 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 12 | △104 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △0 | △0 |
| 定期預金の払戻による収入 | 9 | — |
| 有形固定資産の取得による支出 | △136 | △93 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | — |
| 投資有価証券の取得による支出 | △3 | △3 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 73 | 57 |
| その他 | 2 | △18 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △53 | △59 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △0 | △0 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 3 | 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △37 | △163 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,103 | 1,854 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | ※ 2,066 | ※ 1,691 |

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結貸借対照表に関する注記）

※ 中間連結会計期間末日満期手形

中間連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の前連結会計年度末日満期手形が前連結会計年度末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (2024年3月31日) | 当中間連結会計期間 (2024年9月30日) |
|------|-------------------------|---------------------------|
| 受取手形 | 0百万円 | —百万円 |
| 支払手形 | 35 | — |

（中間連結損益計算書に関する注記）

※ 1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|----------|--|--|
| 給料 | 1,874百万円 | 1,886百万円 |
| 退職給付費用 | 78 | 79 |
| 賞与引当金繰入額 | 130 | 130 |
| 賃借料 | 1,167 | 1,168 |

※2. 減損損失

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループは、減損損失を認識するにあたり、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として営業店舗、共用資産として本社設備等をグルーピングしております。

減損損失の認識に至った経緯として、昨今の競争激化等により店舗等の収益性が低下しているため、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(11百万円)として計上しております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額 |
|------|----|---------|-------|
| 大阪府等 | 店舗 | 建物及び構築物 | 11百万円 |
| 合計 | | | 11百万円 |

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、重要性の高い土地・建物については不動産鑑定士による不動産鑑定評価額に基づき評価しております。また、その他の土地については路線価による相続税評価額に基づき評価し、その他の資産については、処分見込価額としております。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループは、減損損失を認識するにあたり、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として営業店舗、共用資産として本社設備等をグルーピングしております。

減損損失の認識に至った経緯として、昨今の競争激化等により店舗等の収益性が低下しているため、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(33百万円)として計上しております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額 |
|------|----|---------|-------|
| 大阪府等 | 店舗 | 建物及び構築物 | 32百万円 |
| | | その他 | 1百万円 |
| 合計 | | | 33百万円 |

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、重要性の高い土地・建物については不動産鑑定士による不動産鑑定評価額に基づき評価しております。また、その他の土地については路線価による相続税評価額に基づき評価し、その他の資産については、処分見込価額としております。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金勘定 | 4,576百万円 | 4,197百万円 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 | △2,509 | △2,506 |
| 現金及び現金同等物 | 2,066 | 1,691 |

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------|---------|------|-----------------|-------|--------------|-------------------------------|
| | 眼鏡小売 | 眼鏡卸売 | 海外眼鏡販売 (注) 3 | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 7,455 | 204 | 5 | 7,664 | — | 7,664 |
| 外部顧客への売上高 | 7,455 | 204 | 5 | 7,664 | — | 7,664 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | 32 | — | 32 | △32 | — |
| 計 | 7,455 | 237 | 5 | 7,697 | △32 | 7,664 |
| セグメント利益又は損失(△) | 55 | △8 | △20 | 27 | △10 | 16 |

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△16百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない中間連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の当社取締役会の決議に基づき、現在解散及び清算へ向けた諸手続中であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

| | 眼鏡小売 | 眼鏡卸売 | 海外眼鏡販売 | 全社・消去 | 合計 |
|------|------|------|--------|-------|----|
| 減損損失 | 11 | — | — | — | 11 |

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------|---------|------|-----------------|-------|--------------|-------------------------------|
| | 眼鏡小売 | 眼鏡卸売 | 海外眼鏡販売 (注) 3 | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 7,438 | 204 | 0 | 7,643 | — | 7,643 |
| 外部顧客への売上高 | 7,438 | 204 | 0 | 7,643 | — | 7,643 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | 28 | — | 28 | △28 | — |
| 計 | 7,438 | 233 | 0 | 7,671 | △28 | 7,643 |
| セグメント損失(△) | △27 | △7 | △8 | △44 | △2 | △46 |

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△6百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない中間連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、当中間連結会計期間において清算が終了いたしました。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位: 百万円)

| | 眼鏡小売 | 眼鏡卸売 | 海外眼鏡販売 | 全社・消去 | 合計 |
|------|------|------|--------|-------|----|
| 減損損失 | 33 | — | — | — | 33 |